

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	周術期にある大腿骨近位部骨折高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>2023年11月に大腿骨近位部骨折による手術のために整形外科病棟に入院された経口摂取可能、受傷前歩行可能であった患者様</p> <p>研究代表者：船橋久美子（北海道医療大学看護福祉学部・助教、老人看護専門看護師） 研究分担者：山田 律子（北海道医療大学看護福祉学部・教授）</p>
③概要	<p>高齢者は低栄養である可能性が高く、大腿骨近位部骨折後の歩行再獲得にも影響しているという背景から、本研究では、大腿骨近位部骨折で整形外科病棟に入院中の周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連について、全国調査により明らかにしたいと考えています。このことは、今後の大腿骨近位部骨折高齢者の低栄養の早期発見と治療・ケア、さらには周術期において早期の歩行再獲得や入院期間の短縮に向けての基礎資料になることが期待できます。</p> <p>なお、本研究はJSPS 科研費 JP21K11093 の助成を受け実施しています。</p>
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	<p>全国調査によって、大腿骨近位部骨折で周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連について明らかにすることです。</p> <p>整形外科病棟における大腿骨近位部骨折で周術期にある高齢者の低栄養と歩行再獲得との関連について明らかにすることは、今後の低栄養の早期発見と治療・ケア、さらには周術期において早期の歩行再獲得や入院期間の短縮に向けての基礎資料になることが期待できます。</p>
⑥研究期間	2024年1月～2024年3月
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	北海道医療大学への質問紙調査による情報提供
⑧利用または提供する情報の項目	<p>属性：性別・年齢・術式・術前日数・術後日数・クリニカルパス 適応の有無・MMSE・HDS-R・認知FIM 歩行状態：骨折前・退院時 栄養状態：身体計測（身長・体重・下腿周囲長・骨格筋指数）採血データ</p>
⑨利用の範囲	船橋久美子（北海道医療大学看護福祉学部・助教、老人看護専門看護師）

⑩試料・情報の管理について 責任を有する者・連絡先	船橋久美子（北海道医療大学看護福祉学部・助教、老人看護専門看護師） 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757 Tel 0133-23-1537 E-mail kumi-funahashi@hoku-iryu-u.ac.jp
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	6階東病棟 看護師長 小林洋子 長岡中央総合病院 電話 0258-35-3700（代表）